

## 教育委員と第六期長期計画策定委員会との意見交換会資料

### 1 学ぶ意欲や自己肯定感を醸成する教育について

- 子どもの健やかな成長のためには、確かな学力に加え、豊かな心を育むことも必要です。日本の子どもたちの自己肯定感は、諸外国と比べて低いという調査結果が示されています。
- 子どもたち一人一人が豊かな人生を送っていけるよう、自他のかけがえのない価値を認識しながら協働し、様々な分野に積極的に挑戦し自分の可能性を高められるようにすることが求められます。不登校、貧困、いじめなど子どもを巡る様々な課題もある中で、自己肯定感を育成していくことは、子どもたちが学ぶ意欲を持ち続け、生涯を豊かに生き抜いていくために必要と考えます。
- 子どもたち一人一人が、他者から謙虚に学ぶ姿勢を大切にしつつ、自らの力の向上に向けて努力したり、自分のよさや可能性を認識して「自分らしさ」を見失うことなく、安心する環境で他者と協働して、自らの力を最大限発揮できるよう自己肯定感を高める教育を推進します。

### 2 市民性を高める教育について

- 急速な情報化や技術革新、グローバル化等、現代社会は大きな変革時期を迎えており、これからの時代を生きる子どもたちには、自立した大人として、よりよい社会づくりを目指して、自ら課題を見付け、協働し、積極的に社会参画する資質・能力（市民性）を育成する必要があります。
- 「自立」「協働」「社会参画」の視点から市民性を育成するために、教科等横断的な学習活動として各学校の教育課程の中核に「武蔵野市民科」を位置付け、計画的・組織的に市民性の育成を図っていきます。
- 武蔵野市民科を実施することにより、自尊感情や情報を活用する力、目標達成に向けて他者と協力する態度、課題解決能力などの資質・能力を育成します。

### 3 インクルーシブ教育のあり方について

- インクルーシブ教育システムにおいては、障害のある子ども障害のない子どもができるだけ同じ場で共に学ぶことを追及するとともに、児童生徒の自立と社会参加を見据えて、個々の教育的ニーズに応じた指導をするため、通常の学級、通級による指導、特別支援学級、特別支援学校など、連続性のある「多様な学びの場」を用意しておくことが必要です。

- 知的障害特別支援学級については、都立特別支援学校や関係機関との連携により指導力向上や支援体制の強化を進めます。肢体不自由特別支援学級については、児童生徒数の推移を見極めながら、今後の在り方を検討します。自閉症・情緒障害特別支援学級の設置については、国・東京都・他市区の動向を注視しながら多角的に研究します。
- 各校において、通常の学級の児童生徒と特別支援学級、都立特別支援学校との交流及び共同学習を実施しています。インクルーシブ教育の理念を踏まえて、交流及び共同学習を推進する必要があります。また、切れ目のない指導支援を行うため、特別支援学級における小中連携を推進する必要があります。
- 特別支援学級と通常の学級との「交流及び共同学習」や特別支援学級の小中連携を推進するための支援策を検討し、必要に応じて対策を実施します。

#### 4 地域・保護者と学校の協働体制の検討について

- 現在、子どもたちを取り巻く教育環境は、地域社会のつながりや支え合いの希薄化、家庭の孤立化など様々な課題に直面しており、学校を巡る課題も複雑化・困難化しています。
- 地域コーディネーターの配置により、地域人材の活用にあたっての学校の負担は軽減されていますが、地域活動の担い手は固定化されつつあり、地域の人々が主体的に学校の教育活動に参画する仕組みづくりが必要です。
- 学校は、これまで開かれた学校づくり協議会で意見を伺いながら学校運営に取り組んできましたが、上記のような学校・家庭・地域を巡る課題を踏まえ、今後、さらに三者の連携・協働を推進し、様々な課題に対応していくことのできる学校運営のあり方を検討していきます。
- また、地域が学校を「支援」する一方向的な活動から、地域と学校が目標を共有して行う双方向の「連携・協働」型の活動にするために、協働体制のあり方を検討していきます。